

耕平さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-kouhei.org



皆さん、こんにちは。春が待ち遠しい季節ですが、まだまだ寒い日が続きます。くれぐれもご自愛ください。

先月まで、お釈迦様の教えの基本、「三法印(さんぼういん)」「四法印(しほういん)」をお伝えしました。今月からは「三法印」「四法印」に密接に係る「四諦(したい)」について勉強したいと思

います。お釈迦様は「中道(ちゅうどう)」の大切さを悟りました。すなわち、快樂を追求して欲望のままに生きることを、苦行に身をゆだねて自らを苛むこと、そのような両極端の生き方は無益だと悟ったので

す。そして、平穏な心で「中道」の生き方を実践するための四つの真理が「四諦」。人生と向き合うための四つの鍵と言ってもよいかもしれません。「四諦」とは「苦諦(くたい)」「集諦(じつたい)」「

滅諦(めつたい)」「道諦(どうたい)」の四つ。「諦」は「あきらめる」ということではなく「明らかにする」という意味を表します。

お釈迦様は、人が生きることとは「苦」と向き合うことと教えました。その真理を表現しているのが「苦諦」という言葉です。

若くいたいと思っても、老いを避けることはできません。健康でいたいと思っても、病を避けることもできません。生・老・病・死の「四苦」に「愛別離苦(あいべつりく)」「怨憎会苦(おんぞうえく)」「求不得苦(ぐふとくく)」「五蘊盛苦(ごうんじょうく)」の四つを加えて「四苦八苦(しくはくく)」。

「滅諦(めつたい)」。病や欲望など、人間の心身が本能的に持っている苦しみと向き合う「五蘊盛苦」。

このように、人が生きることとは「四苦八苦」と向き合うことであるという真理を表すのが「苦諦」です。

この真理が得心できれば、身の回りの「苦」に対する悩みも少しは和らぐかもしれませんね。なぜなら、人生は「苦」と向き合うこと、つまり「苦諦」だからです。

では、どのように「苦」と向き合うのか。それを教えてくれるのが「集諦」「滅諦」「道諦」。来月は「苦」との向き合い方を勉強したいと思

います。何かを我慢するという「苦」を受け入れられず、あれも欲しい、これも欲しいという人々の欲求に、応えて借金が膨らむ国や自治体。お釈迦様に教えるを乞わなければなりませんね。

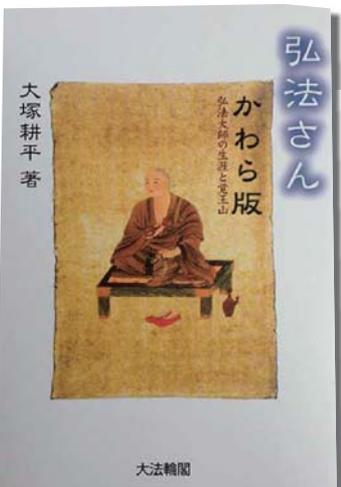
※



かわら版執筆者 大塚耕平

愛知県名古屋市生まれ。知立と並んで「弘法さん」の縁日で有名な覚王山が出身学区。地元の歴史・文化の継承と振興のために「弘法さんかわら版」を執筆し始めて13年目。昨年からは、覚王山日泰寺に続いて知立遍照院の縁日でも「弘法さんかわら版」がスタート。

愛知県立旭丘高校、早稲田大学・大学院を経て、日本銀行に18年間勤務。2001年から参議院議員。内閣府副大臣、厚生労働副大臣等を歴任。現在、早稲田大学と中央大学大学院の客員教授を兼務。



弘法さんかわら版

弘法大師の生涯と覚王山

第1号から第78号は、2008年に大法輪閣から本になって出版されました。

好評発売中

大法輪閣
(仏教書の老舗出版社)

営業部：電話 03-5466-1401

